



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第45回「貿易統計について」

11月20日に財務省より貿易統計（10月 速報）が発表にされました。今週は我が国の貿易についてお伝えします。

～令和6年10月貿易統計（速報）の概要～

10月の輸出額は9兆4,267億円、前年同月比で+3.1%となりました。一方、輸入額は9兆8,879億円、前年同月比で+0.4%となりました。この結果、差引金額は▲4,612億円の赤字となりました。4か月連続の赤字となっています。輸出品目で増加したのは、半導体製造装置（伸び率：+42.6%）、医薬品（同：+34.2%）、科学光学機器（同：+11.8%）などでした。一方、減少した品目は、鉱物性燃料（注・石炭や石油製品など）（伸び率：▲39.0%）、自動車の部分品（同：▲12.3%）、鉄鋼（同：▲12.2%）などでした。輸入品目で増加した品目は、電算機類（含周辺機器）（注・スマートフォンなど）（伸び率：+46.0%）、非鉄金属鉱（同：+38.3%）、通信機（同：+8.7%）などでした。減少した品目は、原粗油（伸び率：▲14.2%）、石炭（同：17.0%）、半導体等電子部品（同：▲15.1%）などでした。（▲はマイナスを表します。）

今年1月からの我が国の貿易額（総額）の累計は、輸出額が88兆281億円、輸入額が93兆3,689億円となり、貿易収支（輸出額－輸入額）は▲5兆3,408億円の赤字となりました。

地域別の貿易収支ですが、今年1月からの累計で中国が▲5兆3,219億円の赤字、アジアが2兆1,062億円の黒字、米国が6兆9,671億円の黒字、EU（ヨーロッパ連合）が▲1兆6,241億円の赤字となっています。

～為替動向と貿易収支～

裏面グラフ1をご覧ください。このグラフは1989年1月からの貿易収支を示しています。左にあるメモリの0から上が貿易収支の黒字を、下が赤字を示しています。このグラフ1を見ると、2011年頃から貿易赤字となる場合が多くなっています。2011年3月の東日本大震災によって全国の原子力発電が停止され、エネルギー源として火力発電頼りとなり、原油や液化天然ガスの輸入が増えたことが貿易赤字の要因となっています。また、2022年以降の大きな貿易赤字は、コロナ感染症の沈静化による需要拡大やロシアのウクライナ侵攻によりエネルギー価格や食糧価格が上昇したことに加え、2000年までの円高で多くの国内輸出企業が現地生産に切り替えたことも貿易赤字が常態化する要因となっています。

裏面グラフ2をご覧ください。このグラフはドル＝円相場を1989年1月から週次で示したものです。緑色の線は、このグラフの最も円高になった2011年10月（①と表示）に引いています。グラフ1に引いている緑の線も同じ2011年10月に引いています。この線より左側は、総じてドル安円高となっていました。右側はドル高円安となっています。グラフ1を見るとこの線より左側は貿易黒字が定着していましたが、右側は貿易赤字となる場合が多くなっていることが分かります。このように、為替相場は本来2国間の貿易による物品の移動に伴うお金の移動によって変動します。現在はモノの移動より資本の移動（M&A等）が大きいと、金利差によって相場が動いていますが、貿易のモノの移動による為替相場への影響も重要であることに変わりはないと考えます。そのため、貿易収支の赤字は円安材料の一つとなっています。

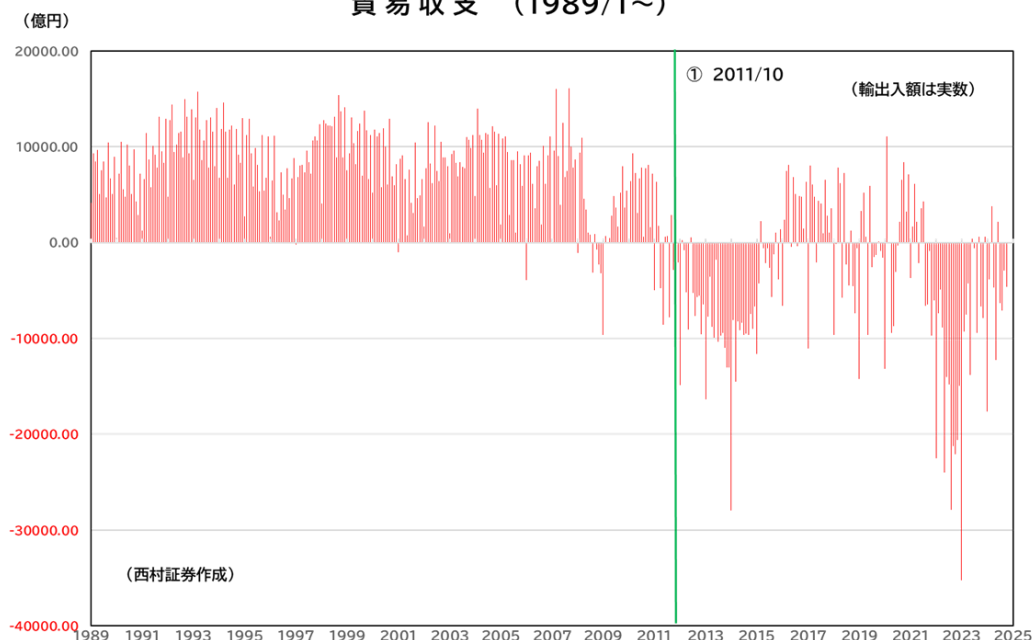
～トランプ政権の関税政策と貿易収支～

来年1月に就任するトランプ大統領は、米国への輸入品に対して一律10%の関税をかける政策を取ろうとしています。また、先週にはSNSでメキシコやカナダからの輸入品には25%の関税をかけると表明しました。先に申し上げたように、我が国は米国との貿易で大きな貿易収支の黒字を計上していますが、このような高関税をかけられることで、わが国から米国への直接、間接の貿易が細るような事態になれば、ますます日本の貿易黒字は減少していくでしょう。そうなれば、円の需要が減少し、ドル高円安が徐々に進んでいくと考えます。

今後、第2次トランプ政権の関税をはじめとする政策やその影響について注視していく所存です。

グラフ1

貿易収支 (1989/1～)



グラフ2

ドル=円 週次(1989/01～)

